

心理劇

THE JAPANESE JOURNAL OF PSYCHODRAMA

第15巻 第1号/平成22年12月1日 Vol. 15, No. 1, December 2010

巻頭言

役割療法：役割の喪失と回復……………川幡 政道… 1

特集・シンポジウム<心理劇の活性化に向けて>

心理劇の活性化に向けて……………増野 肇… 7

心理劇の活性化に向けて-私の処方箋-……………高良 聖…13

札幌サイコドラマ研究会は活性化しているか-研究会会員と非会員の動向から-……………前田 潤…19

実践報告

母親と共に来談した不潔恐怖の強い強迫神経症患者へのロール・プレイングを用いた援助の試みについて
浮田 徹嗣…25

短 報

軽度発達障害のある幼児に対する心理劇……………黒川祐美子…37

書 評

『参加観察の方法論-心理臨床の立場から-』(台利夫 著)……………武藤 安子…47

情 報

日本集団精神療法学会のCGS ミーティングと活性化プロジェクト……………小笠原美江…49

会 報……………51

THE JAPANESE JOURNAL OF PSYCHODRAMA

Vol.15, No.1 / December 2010

CONTENTS

Remarks

Introductory Remarks.....Masamichi Kawahata... 1

Remarks on Special Articles · Symposium : For the activation of psychodrama

For the activation of psychodrama.....Hajime Mashino... 7

Aiming at activating Japan Psychodrama Association - my suggestion as a prescription -
Kiyoshi Takara...13

Is Sapporo Psychodrama Association Activated?

- based on the analysis of members' and nonmembers' trends.....Jun Maeda...19

Practice Studies

Support using role-playing for a patient with obsessional neurosis marked by intense mysophobia
who visited with her mother.....Tetsuji Ukita...25

Short reports

Psychodrama for preschool children with mild developmental disorders.....Yumiko Kurokawa...39

Book Review.....47

Information.....49

Announcement.....51

Edited and Published by

Japan Psychodrama Association

(c/o Uekusa Gakuen University, Faculty of Developmental and Educational Studies, 1639-3 Oguracho,
Wakaba, Chiba, 264-0007, JAPAN)

President : Kiyoshi Takara (Meiji University)

Editor : Masamichi Kawahata (Yokohama City University)

Editorial Committee : Hiroko Ibaragi (Komazawa University), Masahiro Ito (Niigata University of
Health and Welfare), Yoshie ogasawara (Psychotherapy Office TMS), Munetsugu Todo (Yamazaki
Mental Hospital), Susumu Harizuka (Kyushu University), Yasuko Muto (Kyoritsu Women's
University), Harumi Yoshikawa (Tokyo Kasei Gakuin University)

執筆要項

1. 論文の内容は未公開のものに限る。事例提示の場合は、記載する情報は必要最小限とし、プライバシーに十分配慮すること。
2. 論文の長さは、原則として原著・総説・事例研究・実践報告は図、表、写真を含めてA4判（40字×40行）用紙11枚、短報・資料・その他は8枚を上限とする。上限を超えても掲載が認められることがあるが、その場合は原則として超過分の制作費は投稿者の負担とする。
3. 原稿は横書きで、原則として常用漢字・現代かなづかいを用い、数字は算用数字を用いること。図、表、写真は必要最小限にして別紙に書き、本文中にその挿入箇所を明示すること。本文にはページ数をつけること。
4. すべての投稿論文には、表題、著者名、所属機関名、論文の種別、連絡先住所、電話番号、Eメールアドレスを記載し、かつ表題、著者名、所属機関名については英語表記を添え、本文に添付する。原著および事例研究には、英文要約を必須とする。英文要約は100~200語で作成し、5項目以内のキー・ワードをつけること。英文要約およびキー・ワードについては日本語訳を添えること。英文は英語の専門家の校閲を経ていること。
5. 外国人名、地名に原語を用いる以外には、記述中の外国語になるべく訳語をつけること。
6. 引用文献は本文の最後に著者名のアルファベット順に一括して記載し、本文中では、著者名（発行年）で引用すること。
 - a) 文献の記述形式は、雑誌の場合は、著者名、公刊年度（西暦）、論題、誌名、巻（ゴチック）、号、記載頁の順序による。単行本の場合は、著者名、発行年度（西暦）、書名、発行所の順とする。ただし編者と担当執筆者の異なる単行本の場合は、該当執筆者名を筆頭にあげ、以下発行年度、編者名、書名、発行所の順とする。
 - b) 同一著者で2種以上の文献がある場合には発行年度順とし、さらに同年度に同一人の2種以上の文献がある場合には1990a、1990bのように区別して記載すること。
7. 校正は、初校を著者、再校以降は編集委員会で行う。
8. 投稿論文については、執筆者に別刷り20部を贈呈する。それ以上は執筆者の負担とする。
9. 本誌に掲載された論文の原稿は、原則として返還しない。
10. 投稿に際しては、投稿原稿とは別に、著者名、所属機関名、謝辞を削除したコピー2部を添え、書留郵便（エクスパック可）にて送付すること。郵送とは別に、投稿原稿をEメールの添付ファイルとして送ること。

編集委員

委員長：川幡 政道

委員：伊東 正裕 茨木 博子 小笠原 美江 藤堂 宗継 針塚 進
武藤 安子 吉川 晴美

編集規定

1. 本誌は日本心理劇学会の機関誌として年1巻発行する。
2. 本誌は、原則として本学会会員の心理劇に関する論文の発表にあてる。
ただし、非会員からの投稿論文で本学会に寄与するものは、掲載が認められることもある。
3. 本誌には、特集、原著、総説、事例研究、実践報告、短報、資料のほか書評、海外文献紹介、情報、会報などの欄をもうける。
4. 特集、書評欄は、原則として編集委員会の指定した依頼原稿によって構成する。
5. 原著論文は、心理劇あるいはその関連領域における未公開の独自性ある論文で、学術的考察のなされているものとする。
6. 総説は、心理劇あるいはその関連領域における特定の主題についての学問的動向を見渡し、著者独自の論考がなされている論文とする。
7. 事例研究は、心理劇あるいはその関連領域の臨床・実践活動における事例について考察のなされている論文とする。
8. 実践報告は、心理劇あるいはその関連領域の臨床・実践活動で得た知識、経験、成果などを報告する論文とする。
9. 短報は、心理劇あるいはその関連領域における萌芽的研究で、今後発展が期待できる研究を手短にまとめたものとする。
10. 資料は、心理劇あるいはその関連領域における掲載する意義があると考えられる実践、調査、事例、理論等に関するレポートとする。
11. その他必要に応じ、編集委員会での検討により論文の種類を新たに設定することがある。
12. 投稿論文は編集委員会によって審査され、その掲載の可否が決定される。
なお、編集委員会は、会員もしくは会員外に審査協力を依頼することがある。
13. 本誌の編集は、編集委員会の責任のもとに行われる。
14. 原稿の印刷に特に費用を要するものは、執筆者の負担とする。
15. 本誌に掲載された論文を無断で複製および転載することを禁ずる。

心 理 劇 第 15 卷 第 1 号 編 集 日本心理劇学会編集委員会

2010 (平成 22) 年 12 月 1 日 発行 発 行 日本心理劇学会

〒 264-0007 千葉市若葉区小倉町 1639-3

植草学園大学発達教育学部発達支援学科

西村研究室気付

FAX 043-239-2609

製作 社団法人やどかりの里

やどかり印刷

〒 337-0026 さいたま市見沼区染谷 1177-4
